

關しても、我々の理解を著しく助けてゐる。

從來とても個々の精密な城郭研究は數多く公けにされてゐる。しかし大部分は夫々の視角から夫々の事例を解析し抽象したに止まつて、未だ完全にそれを再組織して日本城郭の歴史を構成する迄には至つてゐなかつた。勿論如何なる學問と雖も、限られた範圍があり、その視角と方法と態度とに特殊なものがある。即ち分科的性質を帯びてゐる。しかしそれは結局分科的綜合とも言ふべき態度にまで發展せしめられなければならない。この意味に於いて本書が精密な攻究の結果に成る幾多の小項目の集成であると共に、その総合的部面に就いて深い關心が拂はれてゐる事を強く感ずるのである。就中、各時期の「戦争と築城」の項目の如きは、相聯關して、城郭を中心とせる日本歴史とでも稱すべき組織を有してゐる。(菊版七三二頁、定價六圓、東京雄山閣發行)(時野谷)

東洋文庫地方志目錄(支那・滿洲・臺灣)

東洋文庫編

支那の地理、歴史を研究する者にとつて、彼の國の地方志が貴重な資料を提供する者である事は今更贅言を要しない所であつて、各國の大學、圖書館等に於いては銳意之が搜集に努力してゐるのである。東洋文庫の地方志の膨大な蒐集は遠く海外にまでその名を知られながら、未だ完全な目錄が公にされないので遺憾とされてゐた。然るに昨年十二月創立十週年記念として出版されたのが即ち本目錄であつて、收むる所二千五百五十部に上る。而も

之が採購には僅か十數年を費したのに過ぎないのであつて、當事者の不斷の努力に對して敬意を表すると共に、東洋文庫の豊富な財力にして始めて可能な事であるのを認めねばならぬ。その數量に於いては、支那の國立北平圖書館に次ぐ者で實に世界に誇るべき大蒐集である。我が國では内閣文庫に約六百部の珍本が藏せられてゐる外、之に次ぐ者としては東方文化學院京都研究所に凡そ千部に上る地方志が採集されてゐる。今まで知られてゐる重要な方志目錄は殆んど朱士嘉の中國地方志綜録に收録大成されてゐるが、本書序文にもある通り、本目錄と對比する時尙多くの出入を見るのである。その内容について詳細點檢した結果、民國以前のものに就いて言へば綜録未收のもの五十種を越え、その他從來天下の孤本と考へられてゐたもので之に收められてゐる者も少なくない。之が本目錄が獨特の價値を持つ所以である。従つて此の上に、靜嘉堂、前田家尊經閣の目錄及び本年六月出版された國立北平圖書館方志目錄二編等を加へて中國地方志綜録の補遺を作ることが出来るのである。本書の分類は蒙古西藏を除き省別として大體北部・中部・南部支那の順序に配列し、滿洲國臺灣を別に附載としてをり、各省内に於いても府の順序は乾隆二十九年の一統志以後の制に基きながら、直隸州を適宜その間に置按する等、編者の新しい努力が認められる。尙終りに、索引索引を附して使用者の便利を計つてゐるが、更に各府州間の限界を一目瞭然たらしめ、各所屬の縣名を一應列擧する等の用意があれば一層便利であると思ふ。(昭和十年十二月東洋文庫發行、四六倍版、非賣品)

(日比野丈夫)